

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

no
1

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

チュウホクドットコム

中北の地域社会 (COMmunity)の心の交流 (COMmunication)をめざします

「大人が変われば、子供が変わる」

中北教育事務所
所長 清水 徳生

まぶしいほどの新緑に、心ときめく季節を迎えています。もう少し季節が進むと、若葉はその色を増し、緑一色となります。ちょうど今の時期は、樹木の種類により『緑』が微妙な違いを織りなし、里山はまるで感情を持っているかのごとく、豊かな表情を見せています。

関係者の皆様におかれましては、日頃より、中北教育事務所の地域教育業務に御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。「輝きあんしんプラチナ社会」の実現を目指し「ダイナミックやまなし総合計画」が平成27年に策定されました。昨年度の「スタート実行の年」に対して、今年度は「実行を加速する年」と位置づけています。「新やまなしの教育振興プラン」は3年が経過しました。今年度はこれまでの成果と課題を検証し、より充実した新たなステージへ向かう年ということができます。夢と希望に満ちた地域づくりの根底には、未来を拓く人づくりが欠かせません。学校教育と社会教育や家庭教育が、相互に連携を図ることにより、その効果はより大きくなると思います。

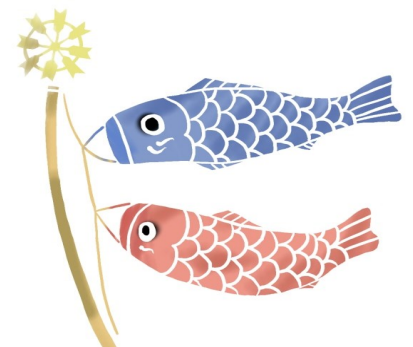
私はこの職に就いてから、山梨ことぶき勸学院の入学式、卒業式に参列する機会を得ました。そこには、「還暦」を過ぎてはなお、学び続けよう、自己の可能性を伸ばし続けようとする「還暦10代・20代の若人」の姿がありました。

『大人が変われば 子供が変わる』これは、県外出張の折、電車の窓から見た名も知らぬ町の標語看板です。子供たちの健全育成は、まず大人が手本を示すことから始まることを教えています。

我が郷土が生んだ大村智博士のノーベル生理学・医学賞受賞はまだ記憶に新しいところです。さらに、最近のニュースでは、中央市出身の平野美宇さんの卓球のアジア選手権女子シングルス優勝があります。リオデジャネイロ五輪女王を含む、世界ランク1位、2位、5位を立て続けに破つての堂々の優勝です。リオ五輪代表漏れの挫折の末の栄冠だと聞きます。「挫折こそ、人生のバネ」多少の苦難でも心が折れることなく、悔しさを自分磨きのエネルギーにできる「しなやかな心」を育んだ結果です。

「新やまなしの教育振興プラン」具現化のために示した10の基本方針の1つ目が「世界に通じ、社会を生き抜く力」の育成です。大村博士と平野選手の活躍は、『未来を拓く』中北教育事務所管内のみならず、県内の子供たちにとっての輝かしいお手本ということができます。このお二人に続く人材の登場を願わずにはられません。

中北教育事務所としましても、昨年度と同様のスタッフ構成で、県民に信頼され、地域に貢献できるよう、スタッフ一同全力で職務に邁進する所存です。また、各種関係団体との連携を図りながら、家庭教育・地域教育・社会教育の振興・発展のため取り組んで参ります。本年度も、関係各位の変わらぬ御支援と御協力を願います。



勸学院生の皆さん、御卒業・御入学おめでとうございます —山梨ことぶき勸学院 28年度卒業式 29年度入学式—



3月17日、コラニー文化ホールで平成28年度山梨ことぶき勸学院の卒業式が行われました。189名(中北教室31名・甲府教室52名)の卒業生に対し、副学院長である岩下清彦社会教育課長より卒業証書が授与されました。勸学院には皆勤賞(2カ年)も設けられていて、受賞者は36名(中北教室8名・甲府教室12名)です。卒業生を代表して中北教室の依田英樹さんが、「卒業後は地域の一員として、勸学院で学んだ2年間の糧に、地域社会の活性化に貢献していきたい」と、力強く挨拶をし、厳粛な中に温かさのある卒業式となりました。

4月14日、ことぶき勸学院入学式がコラニー文化ホールにて行われました。

166名の2年生に迎えられ、本年度は甲府教室55名、中北教室31名を含む176名が入学しました。式では、守屋守学院長(教育長)より、『『生きがいの創出』『新たな縁・絆の構築』『地域の活性化に貢献できる人財の育成』『健康増進』を4つの柱とし、

多くの方々と出会い、親交を深め、人の輪をつなげて、大いに楽しんでほしい。』と式辞をいただきました。また、新入生を代表し、中北教室の小林政子さんが「向上心を持って学習に取り組み、長年培ってきた知識や技能をさらに磨いて地域社会に役立てたい」と誓いの言葉を述べました。新入生は、それぞれ2年間の学習に向けて、志を新たにしました。



講演会「学び続けることの大切さ」 北野大氏(淑徳大学教授)

3月17日、卒業式の午後、北野大氏をお招きして「学び続けることの大切さ」と題して講演がありました。テレビでもおなじみの先生ですが、大変気さくな方で、わかりやすくユーモアにあふれたお話をさせていただきました。以下は、講演の概要です。

○健康長寿に必要な条件: 母「北野さき」さん(明治37年生まれ、平成11年逝去(享年95歳)。元祖教育ママ)の生涯から言えること。

- ①適度な運動→とにかく良く歩いていた。
- ②適切な食事→和食大好き、焼き物より煮物。生ものはほとんど食わず、牛乳をよく飲む。
- ③生き甲斐→お節介が趣味

○健康寿命:健康上の理由で日常生活が制限されることなく生活できる期間を「健康寿命」という。平均寿命が延びつつある現在、健康寿命を平均寿命に近づけることが課題。

○学ぶことの意義:昔は、知識を持つことは社会的な勝ちであり、教育機関はいかに知識を

持たせるかに力を注いだ。今は、知識量ではコンピュータにかなわない。大切なのは、本当に自分の頭で考え、世のため人のために働くという精神を持たせること。

○新しい価値観の勧め:地域とのつながり、地域貢献により得られる喜びや生き甲斐。生き甲斐とは「感動すること」、「感謝されること」、「人様のお役に立っているという自覚」

【まとめ】:「きょういく・きょうよう」 今日、行くところがあり、今日やるべき用がある人生をめざしましょう。



講演会「取材から見えた いきいき人生」 名執瞭子氏（テレビ山梨ディレクター）

入学式の午後は、テレビ山梨のディレクターでアナウンサーの名執瞭子氏の講演がありました。番組の取材を通して、各地の高齢者が新たな目標を持ち、文化や芸術等に打ち込む姿を紹介していただきました。

特に、「学びの輪」のコーナーの映像では、各地の公民館等で行われているサークル活動の取材を通じ、地域の絆やそこで楽しく活動しながら学ぶことで、人生を豊かにしてる方々を紹介していただきました。料理教室では、料理を学びながら健康で美味しい人生づくりをめざして、とてもいきいきと活動していました。いくつになっても学び続ける事の大切さを、軽快なトークで楽しくお話していただきました。



ふれあい行事「異世代交流」 北杜高校 ギター部



ことぶき勸学院には、異世代交流プログラムというのがあります。例年、卒業式の後、若者の活動を披露してもらうもので、今年は、北杜高校ギター部に来ていただきました。ギター部は1972年に創部され、長い歴史を持つだけでなく、全国大会でも最優秀賞を受賞するなどトップレベルの実力を有しています。この日、24名の部員が心を一つにしたギターの調べに、勸学院の皆さんも、現実をしばし忘れるかのように聞き入っていました。

子どもの貧困対策・学校応援団・子育て支援 ～社会教育課の本年度事業より～

本年度の社会教育課の主な事業を紹介します。

①子どもの貧困は、身近にあります。この現状に対し、本年度、県は「やまなし子どもの貧困対策協議会」を設置します。「協議会」「連絡会議」「地域会議」「研修会」等を通して行政、学校、関係団体が連携し、貧困状態にある子どもの健やかな育成を図ります。「研修会」は、支援のあり方やその事例紹介を含めた講演会を予定しています。

②地域全体で学校教育を支援し、地域の教育力の向上をねらう「やまなし学校応援団育成事業」、また放課後の子どもたちの安全・安心な居場所づくりと豊かな体験活動を推進する「放課後子ども総合プラン推進事業」に引き続き取り組みます。

③子育ての不安や悩みを解消し、地域での子育てや家庭教育の支援活動を推進できる人材の育成を目指し、「子育て支援リーダー実力アップ講座」(6月～11月 全10回)を行います。受講終了後は、

修了者同士が地域でつながり、支援のネットワークを広げていくことを目指すとともに、『やまなしワクワク子育て親育ちプログラム』を活用し、子育て学習会の開催に携わっていきます。

④八丈島で、9日間にわたる自然体験学習を行う「やまなし少年海洋道中」を実施します。中学生を対象とし今年度30回目を迎えるこの事業は、参加者総数が1,400人を超え、過去の参加者が指導者として参加するという望ましい形になりつつあります。

このほか、高齢者に継続的な学習の場を提供することで新たな生きがいづくりを行い、健康で活力に満ちた地域づくりに貢献する人材を養成する「山梨ことぶき勸学院」、公立図書館等を活用した「子どもの読書活動推進事業」、「やまなし読書活動推進事業」など読書活動推進事業も引き続き行います。

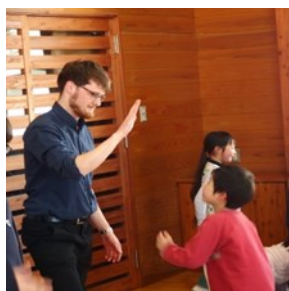


放課後児童クラブを高校生が訪問 英語活動での連携

3月10日、北杜市の大泉西放課後児童クラブを北杜高校イングリッシュクラブの生徒たちが訪問し、英語活動での交流を行いました。この取り組みは今回が初めてで、高校生も小学生との活動は不安だったようですが、とても上手にリードしていました。小学生も学校での英語活動はいままで数回しか経験がないとのことでしたが、好奇心旺盛な子供達はすぐに慣れ、ALTとも活発に触れ合っていました。



新学習指導要領では、小学校の5、6年生で英語が教科として位置づけられ、現在行われている外国語活動は3、4年生に引き下げられます。導入にあたり想定される困難をできるだけ減らし、円滑に進めていくために、各市町村教育委員会では様々な取り組みが始まっています。今回の活動は、放課後児童クラブを利用し、小学生が抵抗なく英語に触れる機会を設けると同時に、高校生にとっても英会話のスキルアップにつながるという両者がメリットを得られる点に特徴があります。今ある環境や人的資源を無理なく利用し、できることから始めるという姿勢は他の地域でも参考になると思いました。



平成29年度 中北教育事務所 地域教育連携事業について

近年、学校の教育力を高めるために、地域の力を活用する動きが強まっています。地域の教育力を有効に機能させるには、各種の組織・団体とのつながりを作り、情報や問題意識の共有を図っていかねばなりません。当事務所が事務局となっている峡北・峡中地域教育推進連絡協議会は、学校、家庭、地域の連携推進のため、甲府・中巨摩・北巨摩の保育園、幼稚園、小、中、高、支援学校までの教職員と保護者の代表、管内7市町の教育委員会、警察、女性団体、青少年育成団体、青年会議所など120名を超える委員で組織され、年3回の研修会を開催しています。昨年度は基本テーマ「子どもを育む」のもと、コミュニティスクール(第1回)、少子化対策・子育て親育ち(第2回)、子ども虐待(第3回)の3つを取り上げました。

今年度は、昨年までの流れを引き継ぎながら、「子どもを支える」を基本テーマとし、以下の研修を予定しております。委員以外の方の参加も大歓迎です。地域教育情報紙「中北.com」でもご案内いたしますので、お気軽に御参加ください。

第1回峡中・峡北地区地域教育推進連絡協議会

日時 平成29年6月22日(木) 14:00～16:30 場所 北巨摩合同庁舎 101会議室

講演 「本県における特別支援教育の現状と課題 特別支援学校で取り組む『合理的配慮』の実際」

講師 元木哲哉 氏(県立かえで支援学校 校長) 武井 恒 氏(県立かえで支援学校 教諭)

第2回峡中・峡北地区地域教育推進連絡協議会(峡中・峡北地区合同地域教育フォーラム)

日時 平成29年10月24日(火) 14:30～16:30 場所 双葉ふれあい文化館

講演 「子どもを支えるための法制度」(仮題)

講師 山下敏雅 氏(永野・山下弁護士事務所 弁護士)

第3回峡中・峡北地区地域教育推進連絡協議会(現在、内容等を検討中)

平成29年度 『中北.com』 No.1

編集・発行 中北教育事務所 地域教育支援

担当：柴 茂生、矢崎 克洋

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

Fax 0551-23-3013